



プレアビヒアから放送開始

プレアビヒアのクラスター爆弾汚染地域で危険回避教育を行なっているCMAC(Cambodian Mine Action Centre: カンボジア地雷対策センター) のMRE(Mine Risk Education)チームからソック・ソコンティアさんをスタジオにお迎えした。

CMAC、MREメッセージ: ソック・ソコンティアさん

今日はタイ軍が戦闘の際にカンボジアへ向けて使用したクラスター爆弾の危険から身を守るための情報をみなさんにお伝えします。

みなさんはもうご存知かと思いますが、タイ軍が国際的に禁止されているクラスター爆弾でカンボジアを砲撃しました。タイ軍が使用したクラスター爆弾は155mmと105mm砲弾で中にたくさんの子爆弾が含まれています。M155mmタイプだとM46とM42という子爆弾が合わせて88発、M105mmタイプだとM39子爆弾が18発入っています。



タイ軍が使用した155mm榴弾NR269、内部に子爆弾M46を56発収容。
発射後、空中で砲弾ケースが爆発して裂け、中の子爆弾が散布される。



ブレイビアで発見されたクラスター子爆弾、M46

子爆弾は円筒形で上にリボンによる安定装置が付いています。もしこのクラスター爆弾を見つけたら触らないで、地元行政の人かあなたの村の近くにいるCMACに伝えてください。私たちはいつでも受けつけています。連絡をいただいたらMREあるいはテクニカルサーベイの専門家を派遣してクラスター爆弾を回収します。

クラスター子爆弾

プレアビヒアで確認されているクラスター子爆弾はM42、M46、M85。高さは81mm、直径が38mm、重さは198g。爆薬は指向性で6センチの装甲を貫通する威力があり、爆弾のケースは爆発すると周囲に飛び散って周囲の車両や人に攻撃を与える。上部にあるリボンは指向性のある爆薬、成形炸薬がうまく炸裂するように落下時の姿勢を垂直に安定させるとともに、リボンが回転することによって起爆装置を作動させる役割がある。しかし、途中木に引っかかったり、地面が軟らかく衝撃が不十分な場合、不発に終わることが多い。不発のまま地面に残った子爆弾は信管が非常に不安定かつ敏感で触っただけで爆発することがある。

触らないで

私たちがラジオを通してリスナーに訴えていることも非常にシンプルなメッセージだ。「見つけても触らないで」。その他の不発弾の場合もそうだが、不発弾は触りさえしなければ事故に逢わなかったケースが多い。非常に敏感で爆発しやすいクラスター爆弾はなおさらだ。CMACのMREチームのスタッフに来てもらい、繰り返し「触らないで」という訴えかけと、見つけた際にはCMACへ電話してくださいとお願いをした。

どれだけのクラスター爆弾が残っているのかわからない。脅威を取り去るまでにどれぐらい時間がかかるかわからない。クラスター爆弾汚染地域では危険と隣り合わせの生活が続く。